

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	微小環境変動に対する細胞応答に着目した治癒をめざした抗腫瘍療法
研究代表者	石川 冬木 (京都大学・大学院生命科学研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和4(2022)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、細胞が弱ストレス応答によって強いストレスへの耐性を獲得する「獲得耐性」現象が腫瘍細胞の悪性化に関与する、という仮説を立て、分裂酵母変異体スクリーニング系を用いて同定した獲得耐性関連分子（HIRA と RACK1）の発がんにおける役割の解明と、分裂酵母における弱ストレス特異的応答関連遺伝子を同定し、哺乳類における当該遺伝子の機能（発がん過程における役割を含む）の解明に取り組むものである。</p> <p>温度ストレスや酸化ストレスを組み合わせた分裂酵母変異体のスクリーニング系に独自性があり、腫瘍細胞の新たな悪性化メカニズムの解明と新規がん治療薬の創出につながる事が期待される。</p>